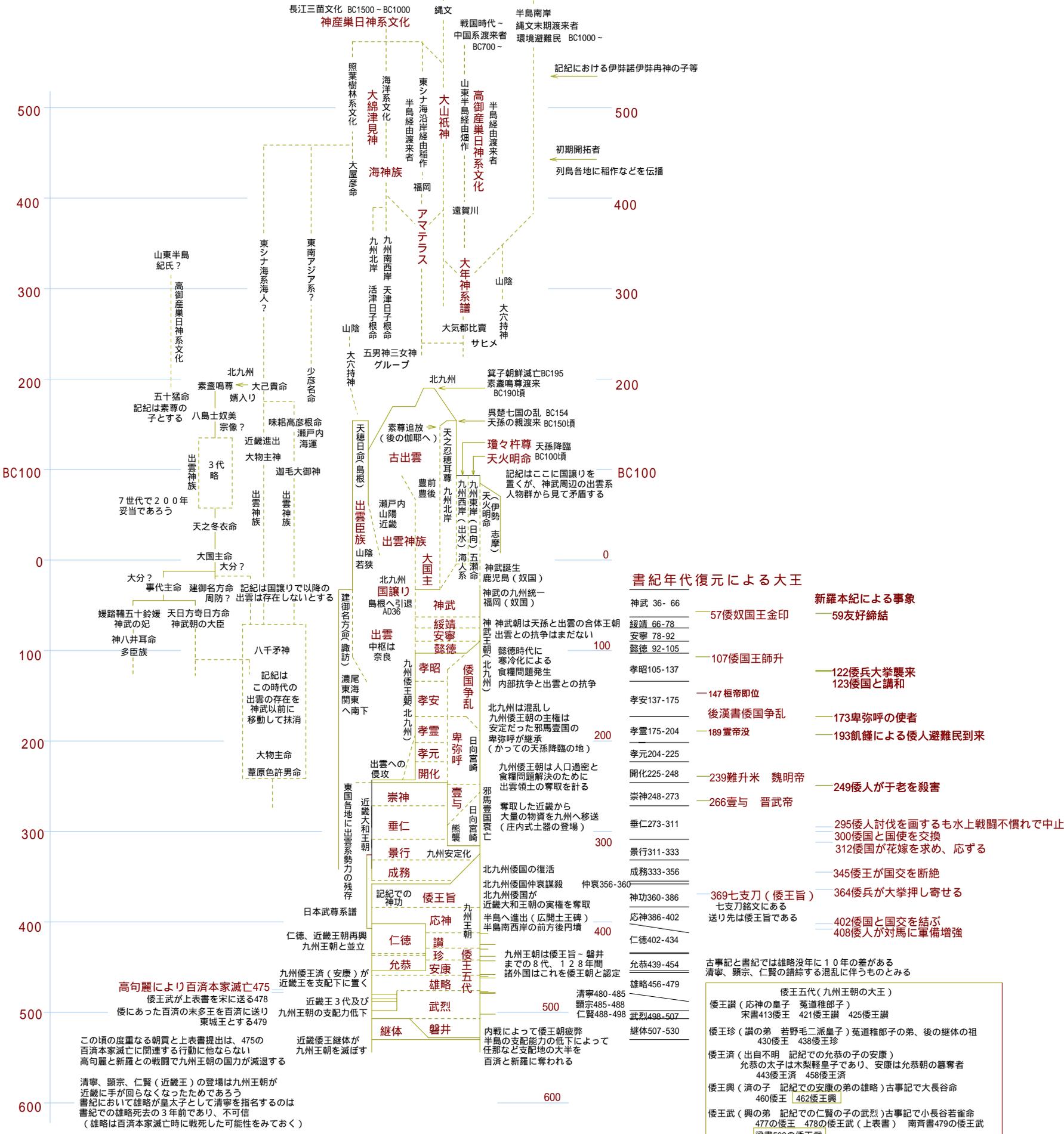


神代～神武朝と 倭王朝～継体の歴史化



書紀年代復元による大王

- 57倭奴国王金印
- 59友好締結
- 107倭国王師升
- 122倭兵大挙襲来 123倭国と講和
- 147桓帝即位
- 173卑弥呼の使者
- 189靈帝没
- 193飢饉による倭人避難民到来
- 239難升米 魏明帝
- 249倭人が于老を殺害
- 266壹与 晋武帝
- 295倭人討伐を画するも水上戦闘不慣れで中止
- 300倭国と国使を交換
- 312倭国が花嫁を求め、応ずる
- 345倭王が国交を断絶
- 369七支刀(倭王旨) 364倭兵が大挙押し寄せる
- 七支刀銘文にある 送り先は倭王旨である
- 402倭国と国交を結ぶ
- 408倭人が対馬に軍備増強

倭王五代(九州王朝の大王)

倭王讃(応神の皇子 菟道稚郎子) 宋書413倭王 421倭王讃 425倭王讃

倭王珍(讃の弟 若野毛二派皇子) 菟道稚郎子の弟、後の継体の祖 430倭王 438倭王珍

倭王済(出自不明 記紀での允恭の子の安康) 允恭の太子は木梨輕皇子であり、安康は允恭朝の篡奪者 443倭王済 458倭王済

倭王興(済の子 記紀での安康の弟の雄略) 古事記で大長谷命 460倭王 462倭王興

倭王武(興の弟 記紀での仁賢の子の武烈) 古事記で小長谷若命 477の倭王 478の倭王武(上表書) 南齊書479の倭王武 梁書502の倭王武

478に宋から南齊に政権交代、475に百濟本家が滅びている この頃に集中する倭王の朝貢は倭王の政権交代とは無関係であり 倭王興から倭王武への政権交代はもっと早い時期である 可能性もある